



深谷市長 小島 進氏

市長のメッセージ

深谷市は、2024年度上期発行予定の新1万円札の肖像となる渋沢栄一翁の生誕地であり、深谷ねぎをはじめとした野菜や花きなどの栽培が盛んな全国有数の農業生産地です。

市の魅力である農業と観光を振興する拠点として、昨年には『花園IC拠点整備プロジェクト』が開業し、市内回遊策など地域経済の活性化を推進しています。

また、今年4月から開始となる第2次総合計画後期基本計画では、渋沢栄一翁の精神を反映した『誰一人取り残さない みんながうれしい ふかや』を基本方針に掲げるなど、誰もが暮らしやすいまちづくりに取り組んでいます。

はじめに

深谷市は、埼玉県の北西部に位置し、東は熊谷市、南は嵐山町と寄居町、西は美里町と本庄市、北は利根川を隔てて群馬県に接している。

市内には、JR高崎線の深谷駅、岡部駅、秩父鉄道の5つの駅があり、2018年には秩父鉄道の新駅として「ふかや花園駅」が設置された。道路は、市内に閑越自動車道花園ICがあり、嵐山小川IC、寄居スマートIC、本庄児玉ICも近接しているほか、国道17号・同深谷バイパス・上武国道、国道140号・同バイパスなどの主要道路が走り、交通の利便性は極めて高い。

深谷市は、利根川と荒川の恵みにより、野菜、花きの生産が盛んな全国有数の農業地域である。なかでも深谷ねぎは高い知名度を誇り、2本の深谷ねぎの角が特徴の「ふっかちゃん」は、市のイメージキャラクターで世代を超え愛されている。近代日本経済の父といわれる偉人・渋沢栄一の生誕地としても知られ、レンガのまちとしても有名である(表紙イラスト)。

★花園IC拠点整備プロジェクトで新たな観光拠点が誕生

農業と観光の振興による広域的な活性化を目的として進めてきた「花園IC拠点整備プロジェクト」により、新たな観光拠点が誕生した。

昨年5月に「深谷テラスパーク」と「深谷テラスヤサイな仲間たちファーム」、10月には「ふかや花園プレミアム・アウトレット」が相次いでオープンした。秩父鉄道「ふかや花園駅」から徒歩3分、花園ICから約1.5kmとアクセスがよい場所に立地している。

三菱地所・サイモン(株)の「ふかや花園プレミアム・アウトレット」には、ブランドショップや地元の名店・グルメなど130を超える店舗が立ち並ぶ。「地域との共生」をコンセプトに、敷地内は深谷市ゆかりのレンガ、緑豊かな自然、ユリをはじめとする市名産の花々のイメージを取り入れたデザインとなっている。

キューピー(株)の「深谷テラス ヤサイな仲間たちファーム」は、レストランや体験農園、マルシェ、野菜教室などからなる、野菜の魅力をまるごと体験できる複合施設である。

深谷市の「深谷テラスパーク」は地域の魅力を発信する総合施設。様々なイベントを開催できる円形広場を中心に、野菜やチューリップをモチーフにした大型遊具、市の魅力を情報発信する大型デジタルサイネージ、山々を一望できるパノラマデッキや、水遊びを楽しめるじゃぶじゃぶ池など、多彩な施設がある。

アウトレットを訪れた人々に市内を回遊してもらい、市全体の活性化につなげることに加え、秩父鉄道沿



「ふかや花園プレミアム・アウトレット」など、花園IC拠点に誕生した新たな観光拠点

深谷市概要

人口(2022年12月1日現在)	141,830人
世帯数(同上)	62,060世帯
平均年齢(2022年1月1日現在)	48.1歳
面積	138.37km ²
製造業事業所数(工業統計)	258所
製造品出荷額等(同上)	4,749.8億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	1,124店
商品販売額(同上)	2,822.7億円
公共下水道普及率	58.0%
舗装率	72.5%

資料:「令和3年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- JR高崎線 深谷駅、岡部駅
- 秩父鉄道 明戸駅、武川駅、永田駅、ふかや花園駅、小前田駅
- 関越自動車道 花園ICから市役所まで約11km

線地域と連携した観光振興にも取り組む。県北・秩父地域の2市5町1村(深谷市、秩父市、横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町、東秩父村、寄居町)で観光連携協定を締結し、広域的な観光振興を目指す。

★ 渋沢栄一ひとづくりカレッジ

2021年に渋沢栄一を主人公とする大河ドラマ「青天を衝け」が放送され、栄一は2024年度上期発行予定の新一万円札の新しい顔にもなる。約500社もの会社設立に携わり、近代日本経済の礎を築いた郷土の偉人・渋沢栄一。その礎の原動力は「ひとづくり」にある。

市では、その思想と精神をいまに生かし時代を担う人材を育成しようと「渋沢栄一ひとづくりカレッジ」プロジェクトをスタートさせた。昨年11月にはキックオフイベントとして「渋沢栄一ひとづくりフォーラム2022」を開催、「経営者の葛藤と知恵」をテーマに渋沢栄一賞の受賞者によるパネルディスカッション、「後継者の苦悩と革新」と題して受賞者の後継者に

よるパネルディスカッションが行われた。

そして2023年度には、「渋沢栄一ひとづくりカレッジ」が開講される。渋沢栄一の生誕地・深谷市から、全国そして世界に向けてひとづくりの輪を広げていく。

★ 農業を核とした産業ブランディング推進

深谷市を持続可能な都市とし、産業の活性化を図るため、深谷市の強みである農業を基軸に産業ブランディングを推進している。「儲かる農業都市ふかや」の実現に向けて3つの取組を実施する。

一つ目は「野菜を楽しめるまちづくり戦略」。野菜を観光資源として活用し、「野菜を楽しめるまち」のイメージを確立する。ふかや花園プレミアム・アウトレットがオープンし、訪れた人が市内各地で野菜を楽しみ、観光回遊してもらうベジタブルテーマパークフカヤの取組を本格化する。

二つ目は「アグリテック集積戦略」。深谷市に農業・食品関連企業や技術革新を得意とする企業を誘致・集積することにより、農業先進都市を目指す。農業版シリコンバレーを目指す取組である。

三つ目は「地域通貨導入戦略」。お金が地域から漏れることを防ぐ「地域内経済循環の向上」と「地域課題の解決を図る」ことを目的とする。地域通貨ネギは、スマートフォンかカードで利用できる。

様々な施策が重層的に進行する深谷市。「元気と笑顔の生産地」の実現を目指したまちづくりが進んでいる。(樋口広治)



深谷市産業ブランディング推進方針